

令和7年度西播磨圏域自立支援協議会 第2回相談支援部会記録

日 時：令和7年9月19日（金） 13：30～15：30

場 所：龍野庁舎 第1会議室

1 開会

開会挨拶

管理者着任挨拶

- ・9月1日付で管理者に着任。
- ・20年あまり姫路市で相談支援をしていた。
- ・西播磨地域のことは何も知らないなので、ご指導いただけたら。

2 兵庫県立西はりま特別支援学校より

- ・毎年「オープンスクール」を開催していたが、今年度は校舎の工事の関係からオープンスクールを開催できない。そのため、校内実習見学を始めることにした。
- ・資料「高等部2年生校内実習見学について（ご案内）」に基づいて説明
- ・高等部3年生の移行支援会議については、進路指導部で対応する。何かあればご連絡いただきたい。

3 コーディネーター連絡会議より

□ 就労選択支援について（西播磨圏域コーディネーター鈴置 氏）

8月に開催された「就労支援フォーラム（@明石）」に参加した。厚労省から就労選択支援の専門官が来られていたので参加したが、兵庫県内であまり大きな動きはないとのことだった。兵庫県の本庁担当課が各圏域や就・センターをまわられて各圏域の動きについてヒアリングを行ったが、10月から本格的に動けそうな圏域は少なく、まだまだ様子見という感じとのこと。就労選択とはどういうものなのかについて、厚労省からリーフレットが発行されていたので、今回の資料として一部抜粋したものをお配りしている。専門官としては、就労の選択ができるということは就労決定支援と同じと言われていたのが印象的。その点が就労アセスメントとの違い。モデル事業をされている松江市のリーフレットもお配りしているので、参考に見ていただけたら。今後も情報が入り次第、みなさんにお伝えする。

□ 事例紹介及び意見交換（A事業所 B氏）

先日、83歳の女性が就B利用希望とのことと相談があった。心臓の人工弁を入れており、身体障害者手帳をお持ちだが、要介護状態ではなく、一般的なその年代の方より元気だった。当施設での在宅支援の就Bを希望しており、現在されている在宅支援の内容がPC操作とコーヒーの粉をパックにいれてシーラーするという内職だった。しかし、今までPCを使ったことがないとのこと。大阪にある事業所が施設外就労と

して姫路にある事業所の PC を使わせているとの話だった。

その方の思いを聞いていると、「生きがいを持ちたい」「年金以外にお小遣いがほしい」とのことだった。制度的には年齢制限はなく、障害者手帳もあるため、就 B を使おうと思えば使えるが、その方の生きがいを支援したり、お小遣い稼ぎのために公費を使って支援するのはどうなのか、と思い、障害者福祉サービスとしては計画書を書くことはできないとお断りし、代わりに自治会活動や家での内職を紹介した。

姫路市では 84 歳の方がセルフプランで就 B を利用中という例があるらしく、確かに地域には元気な高齢者がたくさんいて、今後も増えていくことを考えると、重層的支援としては障害者支援だけでなく高齢者支援も視野に入れて、資源づくりや資源探しをしておかなければいけないのではと思う。他の事業所さんでこの 83 歳の方のような例はあるか？

なお、一緒に来た就 B の管理者は外国籍の方で、カタコトの日本語 & 派手な格好 & たくさんアクセサリーを身に着けていることから怪しさいっぱいだった（お断りの判断材料にはしなかったが）。

（質問）

ケアマネさんから、若年性認知症の 70 歳の方が介護と就 B を使っているという話を聞いたことがあるが、就労する力があるのかという疑問はある。83 歳の方については、動けるのであれば在宅就労じゃなくても良いのではないか？

（回答）

大阪の事業所では在宅支援としてマッサージ施術があり、工賃を出しているとのことで、83 歳の方を連れてきた管理者が姫路でそのマッサージ店をしている。83 歳の方は最初お客さんとして通い、管理者と仲良くなって紹介してもらったとのこと。83 歳の方が「私はこうしたい」と思いがあれば、判断が違ったかもしれないが、管理者がずっとアピールしてきたのが引っかかってしまった。

（質問）

83 歳の方の職歴は？また、福祉サービス事業の利用歴は？

（回答）

若い時に何個か仕事をしていたが、福祉サービスは介護も含めて利用歴無し。主に専業主婦をしており、家族とも一緒にいる（孤立している感じもない）。

（質問）

施設外就労は、その就労先に職業訓練のスタッフがいて初めて成立するイメージしかないが、在宅就労も施設外就労にあたるのか？

（回答）

事業所が在宅を認めただうえで、仕事の開始と終了の連絡をすることを約束してくれれば在宅も可能。ただ、月 1 回は事業所に行かないといけない。月 1 回来られた際に、就 B の様子等についてアセスメントしている。当センターにも、65 歳を超えた方から介護保険を使いながらの就 B 利用について相談を受けることはある。「介

護保険では日中過ごすところがない」「仕事をしたい思いがある」等で聞かれることはあるが、本当に必要なのか、本当に仕事したいのか、というところで事業所と相談している。基本的な考えとしては、65 歳以上の人は介護保険が優先だが、障害者福祉サービスにしかないものについては福祉サービスを使えるということになっているので、就 B も就 A も希望して通っている人もいる（支給決定された場合のみ）。

実際、65 歳はまだまだ若く、要支援が出ない方もいる。姫路市も最初は厳しく、「出ても3年まで」や「70 歳まで」と決めていたが、最近はゆるくなった。ケアマネさんから「まだ働きたいと言っているので…」という相談もある。在宅の事業所は確かに増えてきていて、神戸や大阪などに事業所があるので、自分で調べて相談してくるケースも増えている。どこも月1回は行かないといけませんが、身体障害を持っている方にとってはありがたい制度なので、就 A も含めて今後も増えてくると思う。ただ、今回の方については、自分ひとりで喋ったらどうだったのか、と思う。最初から事業所の人が出て喋るのも気になるうえ、在宅は本当にしたいことなのかという疑問もある。就Bを利用できる方なのかもしれないが、別の地域資源になりうる方かもしれない。今後、どのような人生を送りたいのかを聞くのも良いのではと思った。

4 グループワーク

テーマ：わが街のこうだったらいいなを考えよう

グループごとに、西播磨をより良い地域にするには「こういう施設があったらいいな」や「こういうサービスがあればいいな」を議論し、模造紙に整理して発表。

【A グループ】

日本が抱える問題は西播磨地域も共通。人口減少や学校の統合、スーパーや大きな病院がないこと等。若者が流出してしまうため、就職先や若者向けイベント等が必要。

【B グループ】

日々関わっている利用者さんの視点に立つなど、いろんな立場から意見を出し合った。楽しめる場所があるといいな、オシャレして行ける場所があればいいな、不用品を回収して必要な方に届くようなトラックが走っているといいな、など。ただ、楽しい場所については、ないもの探しになってしまった。これがあったらいいなというのは、すべての課題解決に繋がっていると感じた。

【C グループ】

「住まい」「買い物」「社会資源」などに分類分けをして考えた。A 型・B 型施設にも入浴支援があったらいいな、保証人がいらぬ賃貸があればより住みやすくなるな、移動がもっと便利になるといいな、など。10 個の分類で考えたので、テーマは「十柱万燦（じゅっちゅうばんさん）な町」（10 個の柱をもとに万人が輝ける町へ）。

【D グループ】

花火大会や水遊び場があったら良いな、コストコではなくトライアルが欲しい、働くところがあると良いな、などの意見があり、そのためにも、電車の本数が増えたら良いな、気軽に安く移動できる手段があると良いなというアイデアが出た。また、ヘルパーさんがいない・夜間に来てくれない・高齢化という課題や生活介護の事業所で入浴支援もしてほしいなどの意見もあった。少子高齢化が解消されれば電車の本数やイベントが増えるだろうし、ヘルパーさんの課題も人材不足によるところが大きい、また、人が流出することで市町の財源が減り、より良いサービスに繋がっていないことから、すべては人口減少が原因と考えられる。

【Eグループ】

佐用駅には階段はあるもののエレベーターがなく、車いすの乗降が難しい。タクシーでバリアフリーのある駅に行く、学生の乗降が多いため学生に有償ボランティアをお願いする、車いすについての講義をする等、介助支援が必要と考える。また、母子家庭について、子どもが放デイに通っており、10:00~15:00しか預かってもらえないため、働きに出れないという課題がある。例えば、特養でおじいちゃんおばあちゃんに面倒を見てもらいながら一時預かりしたり、ファミリーサポート会員制で手の空いている人に面倒を見てもらったり、コンビニに預かり施設を設ける等、解決策を考えた。次に、移動が困難という課題については、乗り合いバスやITの買い物支援（タブレット端末で注文できるようにする等）、日中空いているスクールバスを移動手段として利用するなど、解決策を話し合った。最後に、家のこまごましたことで、ヘルパーさんにはできないこと（例えば、電球交換や包丁研ぎ、草刈り等）を就Bとしてやってはどうかという意見が出た。

6 閉会

【各グループワーク模造紙】

